

聖書日課 『からし種』 2024.2.25—3.3

<p>2月25日 (日)</p> <p>詩編 103編</p>	<p>「わたしの魂よ、主をたたえよ」(1節)、「主はお前の罪をことごとく赦し／病をすべて癒し／命を墓から贖い出してください」(3-4節)。わたしたちは毎週の主日礼拝に「何のために」集うのだろうか。「主をほめたたえる」ためである。ちょっとした感謝、ちょっとした恵みどころではない。「命を墓から贖い出された喜び」を持ち寄り、主を共にたたえよう。</p>
<p>26日 (月)</p> <p>詩編 104編</p>	<p>「主よ、御業はいかにおびただしいことか。あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。地はお造りになったものに満ちている」(24節)。テレビなどない時代に、詩人の心は天と地を縦横無尽にめぐり、神の創造の御業をたたえる。私たちは神の働きを小さな殻の中に閉じ込めてはいないか。わたしの思いをはるかに超えた主の御業に目を向けていこう。</p>
<p>27日 (火)</p> <p>詩編 105編</p>	<p>「主は、人々が彼(ヨセフ)を卑しめて…首に鉄の枷をはめることを許された／主の仰せが彼を火で練り清め／御言葉が実現するときまで」(18-19節)。ヨセフを襲った苦難は彼が火で練り清められ、イスラエルの危機を救うリーダーとして立てられるための試練であった。受け止め難い苦難に秘められた主の計画を信じる強さを聖書からいただいきたい。</p>
<p>28日 (水)</p> <p>詩編 106編</p>	<p>「彼らはたちまち御業を忘れ去り／神の計らいを待たず／荒れ野で欲望を燃やし／砂漠で神を試みた」(13-14節)。イスラエルの人びとは荒れ野の旅において、神の御業を忘れ去るに早く、神の計画がなるのを待てなかった。それはそのままわたしの姿ではないか。今日、「神を想起する信仰」において、「正しく神を待つこと」ができますように。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.2.25—3.3

<p>29日 (木)</p> <p>詩編 107編</p>	<p>「主は御言葉を遣わして彼らを癒し／破滅から彼らを救い出された」(20節)。主の御言葉は、私たちが闇と死の陰から導き出し、破滅から救い出す。「わたしの言葉にとどまるなら…真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネ 8:31-32)。自分では自由と想着いても、さまざまな「とらわれ」を生活しているわたしがいる。主の御言葉による自由と癒しをいただいて。</p>
<p>1日 (金)</p> <p>詩編 108編</p>	<p>「あなたの慈しめは大きく、天に満ち／あなたのまことは大きく、雲を覆います」(5節)。詩人はまだ夜の暗さが空を覆っている夜明け前を歩んでいる。夜明け前の空を見つめながら、その空に満ちる神の慈しめを高らかに歌う。詩人の信仰の目には、神による夜明けの光が確かに見えているのだろう。今日、キリストの平和が天と地に満ちるのを信じる者とされて。</p>
<p>2日 (土)</p> <p>詩編 109編</p>	<p>「わたしは貧しく乏しいのです。胸の奥で心は貫かれています」(22節)、「主は乏しい人の右に立ち／死に定める裁きから救ってくださいます」(31節)。「右」は神が現臨される場所であり、「右の手」は神の力と恵みをあらわす。主イエスはわたしの「右」に立ち、「右の手」でわたしを起し、御言葉による救いを見せてくださる。この方を賛美する一日となるように。</p>
<p>3日 (日)</p> <p>詩編 110編</p>	<p>「主は誓い、思い返されることはない。『わたしの言葉に従って／あなたはとこしえの祭司／メルキゼデク(わたしの正しい王)』」(4節)。「イエスは…永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです」(ヘブライ 6:20)。新約聖書の語るようにわたしたちがいただくイエス様は信仰を導く祭司であり、また「平和の王」であり、今日も平和を祈っておられる。</p>